Ⅲ 全体のまとめ

はじめに

カレッジ・コミュニティ調査は、かつて総合教育研究室が長年取り組んできたものであり、2010年からは高等教育推進センターが引き継ぐこととなった。旧来の調査は「研究室」主体の「研究」であったため、経年データの蓄積を重視しており、第17回も基本的にはその方針に則って調査項目を設定している。しかしながら、本センターが「教育推進」を目的とする組織である以上、この事業も早晩、センター設立の趣旨に即応したものへと発展させなければなるまい。よって、次期のカレッジ・コミュニティ調査については、内容を全面的に見直したうえで実施したいと考えている。今般、関西学院大学はIRコンソーシアムに参加することとなり、いよいよ総合的な学習支援に取り組んでいくわけだが、その施策立案のための基盤となるのが学生の実態調査であることは言うまでもない。今後は、先進的な取り組みをおこなっている他大学の状況にも目を配りながら、教育推進に積極的に生かせるような基礎データを収集するための、新たな調査方法の確立を目指していきたい。

なお、上記の観点から、今回のカレッジ・コミュニティ調査は旧来の方針を受け継ぐだけでなく、新たな方針を模索するための試行を兼ねることとした。具体的には、入試種別の調査(一般入試・センター入試・推薦入試ほか、いずれの選抜方式を経て入学したのか)や、GPA調査を盛り込んだことがそれに当たる。ここに卒業生調査(第3回まで実施済み、高等教育推進センターの業務)を加えれば、まさに入口から出口までを押さえた「総合的な学習支援」のための第一歩となるだろう。ただし、被験者が実際にどの科目を履修したのか、より詳細な調査を敢行しなければ、完全なマネジメントは実現できないわけであり、その点で従来どおりの無記名調査では限界がある。これを可能にするための本格的なIRデータ収集用の調査と、従来の在学生調査とをどのように並行させていくかが、IR導入に舵を切った現在の検討課題である。

また、新方式への転換をはかるにあたっては、これまでのカレッジ・コミュニティ調査の総括も欠かせない。本報告書には、「1. 入学動機」「2. 大学生活の実態」「3. 目的意識・価値観および適応」「4. 大学施設」「5. 大学生活の充実度・評価」「6. 大学環境の認知」という6つの角度から、過去のデータと第17回の結果を比較した分析内容が記載されている。詳細はそれらに譲ることにして、この「全体のまとめ」では特徴的な傾向や、今後の検討課題などを拾い上げることとする。

1. 男女差の問題

今回の調査票の回収率は24.6% (1,101件)であった。この数値は前回とほぼ同じであり、およそ4人に1人が応じるというのが、現代の学生の標準なのだろう。できれば第10回以前のような40%を超える回収率を達成し、精度の高いデータを集積したいところである。そこで、改善の余地を探るべく回収状況を検証してみると、男性の回収率が19.5%、女性の回収率が30.2%となっている点が目を引く。男女間で10ポイント以上の開きがあるのは、従来どおりの傾向ではあるが、

この差を少しでも縮めることで全体の回収率を向上させられないものだろうか。

その対策は今後にゆだねるとして、ここで確認しておきたいのは、大学生活のさまざまな局面で男女間の積極性の温度差が浮き彫りになっている点である。例えば、「履修科目すべて出席」(Q2-2)は、男性65.6%に対し、女性76.1%であった。学部別で比較した場合、教育学部や文学部の数値が高いのも、所属している女性の絶対数が多いからだろう。これとは対照的な、男性の一部に見られる「出席をとらない科目は休む」という姿勢は、おそらく「無記名調査には協力しない」という反応とも通底するのではないか。いずれにせよ、アルバイトをしている学生の内訳にしても、わずかながら男性の方が少ないようであり(Q3-5)、「在学中にしておきたいこと」(Q5)に「海外留学」を挙げている人数の割合も、男性(20.0%)が女性(27.3%)を下回っていた。実際に海外留学経験がある学生の数を調べたところ、男性は459人中45人(9.8%)であったのに対し、女性は635人中157人(24.7%)と、顕著な違いを見せていた。さらには、「学生生活の充実度」(Q1)や「心理的不適応」(Q13)にも、多かれ少なかれ男女間の差が表れていたことを付言しておく。

以上のように、女性ほどには「やる気」を発揮できない男性が少なからず存在するようであり、彼らのモチベーションをどのように高めていくか、物事に熱意をもって真剣に取り組む姿勢をどうやって身につけさせるかは、これからも大きな課題であり続けるだろう。思うに、「鉄は熱いうちに打て」の言葉どおり、初年次教育が鍵となるに相違ない。希望をもって入学してきた学生たち(もちろん男性ばかりでなく女性も含めて)の「やる気」を失わせないこと、そうした一種のボトムアップによって、お互いが良い刺激を与え合えるような学生のコミュニティが自然に形成され維持されていくことを、大学側は後押ししていくべきである。今回の「心理的不適応」(Q13)の調査では、学年が上がるにつれて不適応傾向が緩和するという一般的な傾向に反して、2年生が1年生よりも不適応度が若干高くなっていた。この結果を真摯に受け止めて、初年次教育の充実など、将来にむけて有効な策を講じることが必要である。

2. GPA調査の意義

IRを念頭に置いて導入したGPA調査は、想像以上にいろいろな知見を与えるものであった。とくに興味深いのは、GPAが低い学生ほど、履修登録講時数が多いという傾向である(Q2-1)。3.00以上の学生は平均10.4講時であるのに対し、1.00未満の学生は13.4講時であった。一概には言えないかもしれないが、ひとつの見方として、後者の学生は履修分のいくつかが単位不認定になってもよいように、あらかじめ余分に登録をしているということではないだろうか。だが、そうした過重負担は結局息切れにつながる。ここに出席率低下の一因が潜んでいる可能性が考えられよう。GPA3.00以上の学生が「すべての履修科目に出席する」割合は95.1%であるが、1.00未満の学生の場合は33.3%となっている(Q2-2)。成績不振が学ぶ意欲の減退を引き起こし、「質より量」とでも言いたげな履修計画に至らしめているのだとすれば、彼らはさらなる悪循環に陥りかねない。学習効果を上げるには、むやみに多くの科目を受講するよりも、腰を据えて集中的に学ぶことが重要である。現在、各学部では学年およびセメスターごとの履修単位上限数が定められているが、GPAに応じた履修モデルをわかりやすく示すといった対応をとることも、今後検討に

値するだろう。

また、課外活動に関しても、GPA1.00未満の学生には注目すべき傾向が見られる。クラブやサークルに打ち込んでいる者、アルバイトにいそしんでいる者がいる一方で、それらとは無縁の者もかなりの割合を占めているのである(クラブ・サークルなし46.4%、アルバイトなし53.6%)。物事に意欲的に取り組む習慣がない一部の学生は、学業にもあまり熱が入らないということではないか。さらにいえば、サークルやゼミを通じて確かな人間関係を築くことについても、一般の学生に比べて困難になりがちであり、結果的にレポートや試験への対策(必要な情報の入手)が後手に回ることがあるようだ(Q17)。GPA調査から見えてきた、こうしたさまざまな傾向については、今後さらなる分析が必要であり、どのように学習支援の方策を立てていくか、検討課題は山積していると言えよう。

3. 新設学部の傾向

本学では2008年に人間福祉学部が、2009年に教育学部が、2010年に国際学部が創設された。これらの新設学部に在籍する学生の実態については、過去のデータの蓄積がないため、今後の動向が注目される。ただし現時点においてすでに、国際学部生の「在学中にしておきたいこと」(Q5)の回答が「海外留学」に集中していること(75.6%)や、「留学生や外国人教職員との接触」(Q20)が高い数値を示していること(86.0%)など、学部の特性は表出しているようである。教育学部生が文学部生と同じく、「一般的な教養」を身につけたいと考える傾向にあることも、やはり学問領域の性格に由来するのだろう。

教育学部のある聖和キャンパスのアメニティのうち、とくに食堂に関しては不満が大きいことが 窺えた (Q24)。また、総合図書館の利用についても、必然的に教育学部生は来館の機会が少な く、「先生のお薦めの本コーナー」などは、あまり知らなかったようである (Q19)。その一方で、図 書館のオンラインサービスの利用経験に関しては、学部間の差が認められなかった。食堂や教室 そのほか、あらゆる環境面でキャンパス間の格差を埋めることが、今後も引き続き重要課題とな るだろう。

なお、「関西学院での学生生活が将来役立つか」(Q15)という質問項目に対し、新設学部の 学生は肯定的回答を寄せる割合が高かった。これは非常に興味深い。いかなる要因が考えられ るのか、そしてそれをいかにして他の学部でも実現するか、後考を期すこととする。

おわりに

今回の調査にあたっては、教務部・入試部・学生部など、学内のさまざまな部局に協力を要請し、質問項目の見直しはもちろんのこと、本報告書の作成までも分担していただいた。おかげで、それぞれの部局ならではの視点から、数々の有意義な提言を得ることができた。この場を借りて、関係者の方々の尽力に感謝申し上げる次第である。

大学入試のあり方が多様化し、新卒者の就職状況が厳しさを増すなど、大学生を取り巻く環境は年々様変わりしている。学習活動における携帯端末の利用や、SNSの普及も大きな変化である。そうしたなかで、いまの大学生の実情に照準をあわせた調査を将来おこなっていくためには、

学生とじかに接する各部局との連携体制がますます必要になってくるのではないか。今回、調査 実施の準備段階で連携の足がかりを築くことができたのは、特筆すべき成果と言えよう。

これからの高等教育推進センターは、IRの観点からデータ活用の方法論を確立し、その見通しのもとで、各部局の提案を有効にPDCA (計画Plan→実行Do→検証Check→改善Action) に組み入れていくことが肝要である。「われわれの大学をよりよく理解する」という今回のカレッジ・コミュニティ調査が、「総合的な学習支援」の先取りとして、「われわれの大学をよりよくする」ための新たな基盤となることを大いに期待したい。

IV 参考文献、調査票等

・参考文献

- 関西学院大学総合教育研究室「われわれの大学をよりよく理解するために―カレッジ・コミュニティ調査第一次報告書 | 1977.3
- 関西学院大学総合教育研究室 「われわれの大学をよりよく理解するために─カレッジ・コミュニティ調査基本報告書」(II~X VI 第2回~第16回 1980.3~2012.1)
- 佐々木薫・辻村徳治「学生生活の充実感に関する研究―第1回カレッジ・コミュニティ調査資料の再分析―」総研論集 第3号 関西学院大学総合教育研究室 1980
- 乾原正『自由記述』にみる学生の特質 (第3回CCA調査)」総研ジャーナル33号pp.2-6 関西学院大学総合研究室 1983
- 佐々木薫・野田泰史・深井純「学生生活の学生変化に関する研究―第1回・第2回カレッジ・コミュニティ調査資料の比較分析―」総研論集第4号 関西学院大学総合教育研究室 1983
- 乾原正「学生の視点―第5回カレッジ・コミュニティ調査自由記述―掲載にあたって」総研ジャーナル47号 pp.2-3 関西学院大学総合研究室 1987
- 遠藤惣一「学生生活への心理的不適応に関する研究―第4回カレッジ・コミュニティ調査資料の 再分析―」総研論集 第8号 関西学院大学総合教育研究室 1987
- 乾原正・野田泰史・深井純「学生生活の学年変化に関する研究(Ⅱ) ―第3回・第4回カレッジ・コミュニティ調査資料の比較分析─」総研論集 第9号 関西学院大学総合教育研究室 1987 「学生の視点─カレッジ・コミュニティ調査自由記述(4·3年生)─」総研ジャーナル39号 pp.2-28 関西学院大学総合教育研究室 1985
- 「続・学生の視点―カレッジ・コミュニティ調査自由記述 (2·1年生) ―」総研ジャーナル40号 pp.2-24 関西学院大学総合教育研究室 1985
- 「学生の視点―(第5回・第6回・第7回・第8回) カレッジ・コミュニティ調査自由記述―」総研ジャーナル(47号、54号、60号、63号) (1987、1989、1991、1993)
- Berdie F.R. College Expectations, Experience, and Perceptions, Journal of College Student Personnel. Nov.1966. pp.336-344
- Berdie F.R., Some psychometric characteristics of Cues, Educational and Psychological Measurement, 1967, 27, 55-66
- Berdie F.R., A university is a many-faceted thing, Personnel and Guidance Journal, Apr.1967. pp.768-775
- Berdie F.R., Changes in university perceptions during the first two college years., Journal of College personnel, Mar.1968
- Doman F.E., & Cristennsen G.M. Effects of a group life seminar on perceptions of the university environment, Journal of College Student Personnel, Jan.1976. pp.66-71

・集計結果URL

調査の集計結果はホームページをご覧下さい。

「関西学院大学高等教育推進センター」→「研究助成・各種調査報告」→「調査」

URL: http://www.kwansei.ac.jp/cerphe/index.html

第17回(2012年度)

カレッジ・コミュニティ調査

2012年9月

関西学院大学では、1976年からカレッジ・コミュニティ調査を実施し、みなさんの 生活実態、目的意識、価値観などを調査し、分析結果を本学の教育・環境改善に役立て ています。

あなたは、全学生から5人に1人の無作為抽出法で選ばれた調査対象者4,472名の1人です。今回の調査に率直な回答をお寄せいただくことを期待します。

調査の必要上、すべての質問にお答えください。

調査結果は「われわれの大学をよりよく理解するために一カレッジ・コミュニティ調査基本報告書一」として公表され、図書館で閲覧することができます。

なお、ご回答いただいた内容は全て統計的に処理されますので、みなさんの回答が他の人に知られることは絶対にありませんし、調査結果を調査の目的以外に使用することは決してありません。

回答の記入方法

- 1 回答欄が設けられていない質問では、自分の気持ちにもっとも近いものを選んで、その番号(数字)を○で囲んでください。
- 2 回答欄が設けられた質問では、選んだ番号(数字)を回答欄に記入してくださ
- 3 回答のうち「その他」を選んだとき、あるいは「理由」などを具体的に述べる時は()欄に記入してください。

提出期限 2012年10月31日 (水)

提出方法 同封の返信用封筒で高等教育推進センターに郵送してください。

もしくは、直接、高等教育推進センター(西宮上ケ原キャンパス 第四別館

2F) のCCAボックスに投函してください。

万一、期限に遅れた場合も直接高等教育推進センターに提出してください。

問い合わせ先 関西学院大学高等教育推進センター

電話 0798 (54) 7420

メール CCA@kwansei.ac.jp

T部

Q1.	あなたの今の学生生活は、	全体としてどのくらい充実していると思いますか。	1から5までの
	数字を選んで○印を付けて	ください。	

している 非常に充実	しているかなり充実	まあまあ	していないあまり充実	していない
5	4	3	2	1

Q 2 - 1. あなたは今年度の履修登録において、各学期に何講時(コマ)登録しましたか(注:単位数ではありません)。また週平均でみて、実際には何講時くらい出席していますか。

春学期と秋学期で数字が異なる場合は、その平均値を記入してください。

一週間に 講時登録した。
一週間に 講時くらい出席している。

- Q2-2. あなたは授業にはどのくらい出席しますか。
 - 1 履修科目のすべて出席
 - 2 必修科目はすべて出席し、他は出席をとる科目だけ出席
 - 3 必修科目はすべて出席し、それ以外に好きな授業科目を選んで出席
 - 4 必修科目のみ出席

1 海外留学

- 5 その他(
- Q3. あなたが1週間(7日間)に、下記の項目ごとに費やす時間を記入してください。
 - ①~⑥の活動時間のみを記入し、その他の活動については記入する必要はありません。

(1)	大学の授業への出席	() 眠	間
2	授業関連の学習(予習・復習・宿題)	() 時	i間
3	授業外の学習(専門学校や習い事など)	() 叚	間
4	クラブ・サークル(課外活動時間など)	() 時	i間
(5)	仕事・アルバイト	() 時	i間
(6)	娯楽・交友	() 時	間

Q4. あなたが在学中に身につけたい知識や能力を2つ以内で選んで○印を付けてください。

1 一般的な教養2 専門知識3 外国語運用能力4 ITスキル5 プレゼンテーション能力6 ディベート能力7 コミュニケーション能力8 その他(

Q5. あなたが在学中にしておきたいことを2つ以内で選んで○印を付けてください。

4 ボランティア活動 5 インターンシップ 6 クラブ・サークル活動7 友人を作る 8 その他()

3 資格取得

2 外国語研修

Q 6. あなたは次の諸活動をどのくらい重視していますか。				
A~Fの各々について 0 から 5 まで	での数字を選んで○印を付けてください。			
	しま しな は は は は は は は は は は は は は は は は は は			
A ゼミナール	5 4 3 2 1 0			
B 言語(外国語)科目	5 4 3 2 1 0			
C 必修科目	5 ······ 4 ····· 3 ····· 2 ···· 1 ···· 0			
D 必修以外の科目	5 ······ 4 ····· 3 ····· 2 ···· 1 ···· 0			
E クラブ・サークル	5 ······ 4 ····· 3 ····· 2 ···· 1 ···· 0			
F アルバイト	5 4 3 2 1 0			
Q7-1. あなたの親しい友人は何人く	らいいますか。			
1 いない 4 7~9人	2 1~3人 5 10人以上			
Q7-2. あなたはそれらの友人とどの	くらいの頻度で連絡をとっていますか。			
 1 1日に何度も 4 1週間に1度程度 	2 1日に1度程度 3 2、3日に1度程度 5 1ヶ月に1度程度			
Q8-1. あなたはスクールモットー"	Mastery for Service"の意味を理解していますか。			
1 まったく理解してい	ない 2 あまり理解していない			
3 まあまあ理解してい	る 4 よく理解している			
いることを知っていますか。	ery for Service"を体現する世界市民」の育成を使命として 2 知らない			
	だでいるのは、どのような人々との関係ですか。次の中から 号で答えてください。ただし、ここで「仲間」というのは本			
1 家族				
2 出身地や出身校を共通にする	仲間			
3 寮や下宿の仲間	第1位			
4 ゼミナールや研究室の仲間				
5 同じ講義に出てノートや参考	学書を貸し借りしている仲間 第2位			
6 クラブ・サークルの仲間				
7 アルバイトの仲間 8 その他(,			
	/			

158

Q10-1. あなたが大学に進学しようと思ったのはなぜですか。次の中から入学時に<u>重視した順に3</u> つ選んで回答欄に番号で答えてください。

								_
	1	教養や視野の拡大	2	人格形成		3	専門知識、技術の修得	
	4	学問研究	5	就職に有	`利	6	就職に必要な勉強をする	
	7	将来の安定した生活	8	青春を楽	しむ	9	課外活動にはげむ	
	10		11	家族がす		12	先生がすすめる	
	13			その他()	
		刊(5年四188			•			
					\neg		🗀	
	第 1	位	第2	2位			第3位	
	0	9 12 12 TU	J. 18=	C401 \.	2011	د. س . ــــ	-) 010 1 0 T D))	壬卯) 一
910	- z.						「か。Q10−1の項目から、	里倪して
		いる順に3つ選んで回	答欄に	番号で答。	えてくださ	2 / 1°		
	第1	位	第2	位			第3位	
11	-1.	あなたが関西学院大学	を選ん	しだのはな	ぜですか	。次の	中から重視した順に2つ選	ほんで回答
		欄に番号で答えてくた	さい。					
	1 3	建学の精神に魅力があっ	った	2	就職実	績が良	手 かっ	
	3	学部・学科の内容に興味	未があっ	った 4	資格取	得にて	つながる 第1位	立
	5 1	偏差値		6	キャン	パスカ	i きれい	
	7	社会的な評判が良い		8	周囲に	勧めら	あれた 第2位	立
	9	自宅から通える 1	0 その	の他()	
							·	
. 1 1	9	ナモとほじのとことが	. 一、 月日 日	12800128	のこしょん	mh +	こしょい ナンはナフィのナ	・ナベー電
! 1 1	- 2.		で関ビ	子阮人子	のことをす	まりょ	こしたか。あてはまるものを	9八(選
		んでください。						
		1 両親や親類		2	高等学校	党や予	備校の先生	
		3 友人や先輩		4				
		5 難易ランキング表			その他)	
		3		Ū	C 47 IE	(/	
	0	ナナナの田正当防上当	∞+ +	加克萨马士加克	E 1 - 2	1.		
! 11	- s.	あなたの関西学院大学	の心室	別則仏は刊1	針日 ぐしん	ニル・ 。		
		1 第一志望	2	第二志	望		3 それ以外	
11	- 4	Q11-3で、2か3を	躍んだ	方にお聞き	はします。			
	••	Q11 0 4, 2, 0 2	,,,,,), (= 40 pi, c				
		あなたの第一志望であ	った大	学名をお	聞かせくた	ぎさい	0	
		()	大学			
			1. 1.00 3) 12 fs	
		また、その大学を第一	志望と	していた	埋由をお聞	うかせ	ください。	
		()	
12	. あな	たは兄弟姉妹や親しい	友人・	後輩に関西	育学院大学	へ のう	受験や入学をどのくらい勧め	りますか。
	0カ	^ら5までの数字を選ん	で〇日	を付けて	ください。			

勧める 5 ······· 4 ······· 3 ······· 2 ······ 1 ······ 0 勧めない

Q13. 次の文章を読み、あなたの現在の学生生活を念頭に置いて、右側の回答欄に○印を付けて答えてください。「はい」、「いいえ」のいずれにも答えられない場合でも、どちらかというとそうだ、と思う方に答えてください。

		はい	いいえ
1	特別な理由もなく時々大学を休みたくなる	1	0
2	自分の尊敬する先生がいる	1	0
3	大学(授業)に遅刻・欠席することが多い	1	0
4	大学や研究室にいるよりも家や下宿にいる方が好きだ	1	0
5	大学生活の中でリーダーとして行動することが多い	1	0
6	今、所属している学部学科は自分にあっている	1	0
7	必修単位を落とすことがしばしばだ	1	0
8	学友たちと楽しくやっている	1	0
9	病気で大学を休みがちだ	1	0
10	必要な授業だと思っているのに、どうも足が向かない	1	0
11	自分をよく知ってくれている先生がいる	1	0
12	授業がむずかしすぎる	1	0
13	大学や研究室に出かけても何となく手持ちぶさたである	1	0
14	めんどうな勉強には根気がつづかない	1	0
15	他の大学や別の学部・学科にかわりたいと思うことがある	1	0

Q14. あなたは大学の先生とどのくらい接していますか。 A~Eの各々について 0 から 5 までの数字を選んで○印を付けてください。

		非 常 に	かなり	普通	ないり	どない	しない
А	ゼミナールの先生	5	4	3	2	1	0
В	言語(外国語)の先生	5	4	3	2	1	0
С	学部の先生(A以外)	5	4	3	2	1	0
D	他学部の先生	5	4	3	2	1	0
Ε	クラブや同好会の顧問の先生	5	4	3	2	1	0

Q15. 関西学院大学で人生の一時期を過ごすことは、あなたの将来にとってどのくらい役立つと思いますか。1から5までの数字を選んで○印を付けてください。

役立つと思う	役立つと思う	役立つと思う	役立たないだろうたいして	役立たないだろうほとんど
5	4	3	2	1

Ω16	次にあげる墓らし方のうち、	あなたが重視する順に3つ回答欄に書いてください。
wiu.	かにめい なおりしカツ バル	ひがあため 手がり ながはらり イビロー地にロー ヒートルにしょう

1	
2	
3	第1位
4	
5	第2位
6	
7	第3位[
8	
9	
5 6 7 8	

Q17. あなたは次のA~Gのような状況の時、どのような手段で情報や資料を集めますか。下の1~9の選択肢の中から最初に試みる方法と、最初の方法が十分でない場合、次に試みる方法をそれぞれ回答欄に番号で答えてください。その方法が選択肢の中に無い場合は「9 その他」とし、その具体的な方法を括弧内に書いてください。

		最初に	次に
А	授業でレポートの課題が出た		
В	レポートや論文を書いていて、行き詰った		
С	試験がある		
D	趣味に関する情報を入手したい		
Е	コンサートやイベント等について知りたい		
F	よく知らないところに出かける		
G	旅行をする		

1	友人に聞く	2	先輩・先生に聞く	3	家族に聞く
4	インターネット(パソコン	/) -	で調べる	5	図書館へ行って調べる
6	本屋へ行く	7	携帯電話・スマートフォ	ン	で調べる
8	パンフレットを集める	9	その他()

Q18. あなたは次の $A\sim E$ の人たちと主にどのような手段でコミュニケーションを図っていますか。下の $1\sim 6$ の選択肢の中から 頻度の高い順に 2 つまで回答欄に番号で答えてください。その方法が選択肢の中に無い場合は $\lceil 6 \rceil$ その他」とし、その具体的な方法を括弧内に書いてください。

		1番目	2番目
A	親しい友人		
В	家族		
С	クラスの仲間		
D	先生		
Е	ゼミ・サークルなどの仲間		

_						
	1	メール (パソコン)	2	メール(携帯・スマートフォン)	3	電話で話す
	4	直接会って話す	5	SNS(フェイスブック、ツイッターな	どの	ソーシャルメディア)
	6	その他()		

Q19. 図書館の以下のサービスの利用についてお答えください。

		よく利用する	ときどき利用する	利用したことはない知っているが	存在を知らなかった
	新着図書コーナー	4	3	2	1
コー	先生のお薦めの本コーナー	4	3	2	1
 	レポート・論文作成図書コーナー	4	3	2	1
	新聞書評コーナー(西宮上ケ原:讀賣新聞、神戸三田:朝日新聞)	4	3	2	1
料	上ケ原のラウンジ、神戸三田のブラウジング	4	3	2	1
	新書・文庫コーナー	4	3	2	1
	学期中の日曜日の開館	4	3	2	1
の資料 図書館サービス	レファレンスサービス	4	3	2	1
書	他キャンパスで所蔵している雑誌論文等のコピーの取り寄せ	4	3	2	1
出サー	学内に所蔵がない図書の他大学からの取り寄せ(相互利用・図書貸借)	4	3	2	1
ビ	雑誌論文等の他大学からのコピーの取り寄せ(相互利用・文献複写)	4	3	2	1
	他大学図書館での資料の閲覧(相互利用・閲覧利用)	4	3	2	1
	購入希望制度	4	3	2	1
	大学図書館ホームページ	4	3	2	1
	OPAC (関西学院大学図書館蔵書検索システム)	4	3	2	1
オンライ	OPACでの貸出中の図書の予約申込	4	3	2	1
ノイン	OPACでの他キャンパスからの図書の取り寄せ	4	3	2	1
サー	OPACでの借りている図書の貸出期間の更新	4	3	2	1
- ビス	図書館が提供しているWebデータベース(CiNii, 日経テレコン21など)	4	3	2	1
	図書館が提供している電子ジャーナル	4	3	2	1
	図書館が提供している電子ブック	4	3	2	1

Q20. あなたは留学生や外国人教職員と接する機会はありますか。

1 まったく接していない 2 ほとんど接していない

3 たまに接している **4** 日常的に接している

Q21-1. あなたは海外留学したことがありますか。

1 ある 2 計画している 3 ない

Q21 - 2. Q21 - 1 で 1、もしくは、2と答えた方にお尋ねします。留学期間をお答えください。

1 1ヶ月以内で長期休暇期間中 2 3ヶ月程度で1学期期間内

3 6 ヶ月以上1年未満 **4** 1年以上

222 - 1.		ついてお尋ねします。 重機関を利用している	方に	こお尋ねします。	大学	全最寄り駅はどこですか 。
	1 4 7	阪急甲東園駅 JR西宮駅 その他(19.12.		
22-2.	大学最智	寄り駅または自宅から	大学	学までの通学手段	とは何	「ですか。
	1 4	徒歩 50cc以下のバイク	_	 バス その他(3	自転車

Q22-3. 大学最寄り駅から自転車、バイクで通学している方にお尋ねします。 自転車・バイクを最寄り駅付近のどこに置いていますか。

> 1 駐輪場を借りている 2 一時預かりの駐輪場に置いている 3 友人宅に置いている4 不法駐輪している 5 その他(

Q23-1. あなたは大学で昼食をどのようにとりますか?

1 自宅から持ってきた弁当などを食べる 2 食堂で食べる 3 弁当や惣菜などを買って食べる 4 食べない 5 その他(

Q23-2. あなたは昼食をどこでとりますか。

1 学内の食堂 2 学外の飲食店 3 教室など学内の部屋 4 中央芝生などキャンパスの屋外で 5 その他(

Q24. あなたは本学のアメニティ(生活環境の快適さ)についてどう感じますか。A教室、B食堂、 Cトイレ、それぞれについて5段階で評価してください。

	と 思えない と思えない と思えない 快適
A 教室	5 4 3 2
B 食堂	5 4 3 2
C トイレ	5 4 3 2

Q25. あなたは喫煙しますか。

2 喫煙していたがやめた 1 喫煙しない

3 現在喫煙しているが、やめるつもりである 4 喫煙する

F 1	. あ	なた	の所	虱学	部は	どこ	ですか	٠,
-----	-----	----	----	----	----	----	-----	----

 1 神学部
 2 文学部
 3 社会学部
 4 法学部

 5 経済学部
 6 商学部
 7 理工学部
 8 総合政策学部

9 人間福祉学部 10 教育学部 11 国際学部

F2. あなたは、現在何年生ですか。

1 1年生 **2** 2年生 **3** 3年生 **4** 4年生

F3. あなたは、男性ですか女性ですか。

1 男性 2 女性

F 4. あなたの現在のGPAをお教えください。

1 4.00~3.00 **2** 2.99~2.00 **3** 1.99~1.00 **4** 0.99~0.00

F5. あなたは、どのような入試で関西学院大学に合格しましたか。

1 一般入学試験 2 センター利用入学試験 3 推薦入学試験

4 スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験、または特別選抜入学試験(スポーツ活動)

4 ハボーノ配力に関われる とり家とした八十世歌、よたは竹川と以八十世歌(ハボーノ田里)

5 A O 入学試験 6 帰国生徒入学試験 7 外国人留学生入学試験 8 社会人入学試験 9 その他(

F6. あなたは、いま、どのような所に住んでいますか。

1 自宅 2 親戚、知人の家

3 下宿 **4** ワンルームマンション

5 アパート 6 関西学院の学生寮

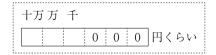
7 その他(

F7. 通学所要時間は片道どのくらいでしょうか。

1 30分未満 **2** 30分以上 1 時間未満 **3** 1 時間以上 1 時間30分未満

4 1時間30分以上 2 時間未満 **5** 2 時間以上

F8. あなたの1ヶ月あたりの平均支出額はどのくらいですか。ただし、学費など大学へ納入する費用は含みません。寮生や下宿生は部屋代や食費を含めてください。



F9-1. あなたは、いま学内、学外を問わず何かクラブ、サークルや団体に入っていますか。

入っている
 入っていない

F9-2. F9-1において「1 入っている」と答えた人にお尋ねします。

A あなたが一番重視しているクラブや団体は、次のどれですか。

1 学内の公認団体(6総部2自治会傘下の団体) 2 学内の同好会(登録団体)

3 その他の学内団体 4 学外の団体

B その団体の活動内容は、次のどれですか。

1 体育・スポーツ活動2 文化活動3 学術・研究活動4 趣味・レジャー活動5 奉仕活動6 宗教活動7 政治活動8 その他()

C あなたは、クラブ、サークルなどの団体活動を通して、どのような能力が培われると思いますか。次の項目のうちあてはまると思うものを2つ選んでください。

 1 協調性
 2 行動力
 3 社交性
 4 忍耐力
 5 企画力

 6 創造力
 7 統率力
 8 指導力
 9 判断力
 10 自己主張する能力

 11 その他(
)

Ⅱ部

つぎに60の文章で大学が表現してあります。それぞれの文章に、正しい答、間違った答はありません。あなたが感じたままを、あまり字句にこだわらずに率直に答えてください。

「学生は・・・・・」の文章は、「一般にあなたの大学の学生は・・・・・」の意味です。

		そう思う	そう思うどちらかというと	そう思わない	そう思わない
1	学内の出来事については、すぐ知ることができる。	4	3	2	1
2	学内は、標識や方向案内図等によってわかり易くなっている。	4	3	2	1
3	学内は、この大学独特の雰囲気が強い。	4	3	2	1
4	無難なクラブやグループにいる方が、社会的に受け入れられる。	4	3	2	1
5	この大学は、より実用的、現実的教育をする傾向がある。	4	3	2	1
6	成績優秀な学生には、特別に勉学奨励の機会が与えられている。	4	3	2	1
7	学生は、リーダーシップ養成の機会に恵まれている。	4	3	2	1
8	この大学は、学生が不満を申し立て易いようになっている。	4	3	2	1
9	学内環境は、大学にふさわしく美しく便利に整っている。	4	3	2	1
10	大学は、学生の能力や個性を生かす機会を与えている。	4	3	2	1
11	学生の勉強意欲をかき立てるような教授方法を工夫し、実行している教師は少ない。	4	3	2	1

		そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
12	一生懸命に勉強しなくても、たいていの科目は簡単に単位をとれる。	4	3	2	1
13	学生は、授業中指名されるまではすすんで発言しない。	4	3	2	1
14	教科書だけ勉強しておけば、ほとんどの試験に間に合う。	4	3	2	1
15	学生は、目標を高くおき、それにむかって努力している。	4	3	2	1
16	教授は、学生の能力を十分ひき出している。	4	3	2	1
17	学生の間では、真剣な知的レベルの高い討論がよく行われている。	4	3	2	1
18	学問のきびしさを教える教師は少ない。	4	3	2	1
19	単位をとり易い科目と、とりにくい科目を誰でも知っている。	4	3	2	1
20	多くの教授は、積極的に研究にたずさわっている。	4	3	2	1
21	学生には、うわべだけの表面的なつきあいが多い。	4	3	2	1
22	学生は、ファミレスや友人の部屋で時間を過ごすことが多い。	4	3	2	1
23	学生は、気軽によく貸し借りをする。	4	3	2	1
24	学生は、困った時はお互いに助け合う。	4	3	2	1
25	多くの人は、自分の周囲の人に対して思いやりがある。	4	3	2	1
26	多くの上級生は、新入生が 大学生活にとけこめるよう積極的に手助けをしている。	4	3	2	1
27	この大学は、非常に親しみやすいという評判である。	4	3	2	1
28	カラオケやコンパ、映画を見に行くとかいうことで、仲間はすぐに集まる。	4	3	2	1
29	大学の行事に、多くの学生は積極的に協力する。	4	3	2	1
30	自治会選挙に無関心な人が多い。	4	3	2	1
31	学生主催のイベント等で交流の機会が沢山ある。	4	3	2	1
32	新しい流行や流行語が、たえず学生の間ではやっている。	4	3	2	1
33	多くのカリキュラムでは、具体的で実際的なものよりも、抽象的なものに重きがおかれている。	4	3	2	1
34	多くの学生は、自分の尊敬する人物のようになろうとする。	4	3	2	1
35	この大学では、実用的コースが設けられている。	4	3	2	1
36	学生の代表は、公に認められた手続きにのっとって選挙されている。	4	3	2	1
37	学生は、自分達の計画、立案したことを最後まで責任をもってやりとげるよう教育されている。	4	3	2	1
38	学生に対して、病気予防のために、保健指導が徹底している。	4	3	2	1
39	キャンパスでは、多くの有名人が招かれ講演会・音楽会・学生討論会等が開かれている。	4	3	2	1
40	この大学には、特別な資料や立派な設備がある。	4	3	2	1
41	教師の研究室をたずねて、議論をしたり質問したりする学生が多い。	4	3	2	1
42	ほとんどの科目では、持続的な勉強や予習が必要である。	4	3	2	1
43	知的レベルの高い授業が多い。	4	3	2	1
44	学生は勤勉であり、確固たる勉学目標を持っている。	4	3	2	1
45	この大学は、純粋な学問や基礎研究の面ですぐれている。	4	3	2	1

		そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
46	この大学では、入学すれば卒業は簡単にできる。	4	3	2	1
47	この大学では、大学院に進学する者が少ない。	4	3	2	1
48	ほとんどの学生は、授業でノートをきちんととろうとする。	4	3	2	1
49	よい成績をとろうと努力する学生が多い。	4	3	2	1
50	多くの学生は、自分の専攻を決めるにあたって、はっきりした目的を持っている。	4	3	2	1
51	大学祭には、学内の雰囲気が盛りあがる。	4	3	2	1
52	学内主催の行事や講演会は、みんなの話題になる。	4	3	2	1
53	学内では、仲間意識が高い。	4	3	2	1
54	ほとんどの教授は、学生の個人的な問題に興味がない。	4	3	2	1
55	学生がお互いによく知り合えるような機会が多くある。	4	3	2	1
56	学生は、教職員に対して、親近感を持っている。	4	3	2	1
57	多くの学生は、卒業しても何らかの形で大学とのつながりを持ちたいと思っている。	4	3	2	1
58	クラブ活動は、大学にとって必要不可欠なものである。	4	3	2	1
59	この大学の社会的評判はとても気になる。	4	3	2	1
60	この大学の個性を誰もが感じている。	4	3	2	1

本学での授業や生活について何か思うことがあれば自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

執筆者紹介(掲載順)

村田 治 高等教育推進センター長 はじめに

永井 良二 高等教育推進センター事務長補佐 I. 調査の概要

尾木 義久 入試部入試課長 Ⅱ.1. 入学動機

Ⅱ.5. 大学生活の充実度・評価

Ⅱ.2. 大学生活の実態 中 利徳 教務部次長 河鰭 一彦 人間福祉学部教授 Ⅱ.2. 大学生活の実態

田村 和彦 国際学部教授 Ⅱ.2. 大学生活の実態 磯辺 淳子 広報室課長 Ⅱ.2. 大学生活の実態

Ⅱ.3. 目的意識・価値観および適応

亀田 啓悟 総合政策学部准教授 Ⅱ.2. 大学生活の実態

小山 裕正 キャリアセンターキャリア支援課長 Ⅱ.3. 目的意識・価値観および適応

澤谷 敏行 高等教育推進センター次長 Ⅱ.3. 目的意識・価値観および適応

Ⅱ.7. 自由記述のまとめ

長沼加代子 言語教育研究センター次長 Ⅱ.3. 目的意識・価値観および適応 Ⅱ.5. 大学生活の充実度・評価

平田 薫 高等教育推進センター教育技術主事 Ⅱ.3. 目的意識・価値観および適応

Ⅱ.4. 大学施設

Ⅱ.6. 大学環境の認知

伊角 富三 学生部次長

魚住 英子 大学図書館利用サービス課総合主管 Ⅱ.4. 大学施設

北村 昌幸 高等教育推進センター副長 Ⅲ 全体のまとめ

われわれの大学をよりよく理解するために(XVII)

一第17回(2012年)カレッジ・コミュニティ調査基本報告書―

発行日 2013年3月31日

編集者 第17回CCA編集委員会

委員長 村田治

発 行 関西学院大学高等教育推進センター

〒662-8501 西宮市上ケ原一番町1-155

電話 0798 (54) 7420

印 刷 タカラ写真製版株式会社

〒551-0002 大阪市大正区三軒家東4-12-15

電話 06 (6552) 4931